

問 10年後の教室を
どうするのか

国は、EdTechをキーワードにAIなどIT技術を教育に活用し、『学びの生産性』の最適化を進めるとしている。遅れていないか。私たちが受けた教育をなぞっているのは、少子高齢化とAIの進んだこれからの社会に対応できる人材育成に繋がらない、今から対策を。

※ EdTech (エドテック) とは、Education (教育) と Technology (技術) からの造語

答 長期的な展望に立った
計画が重要である

学びの生産性を高めるうえで、ICTを活用したEdTechは重要である。今後も国の施策を注視しながら、必要な環境の整備を進めるとともに、市教職員で組織された情報教育推進委員会を中心に、長期的な展望に立った教育計画の立案について研究を進めていく。



黒須大一郎 議員
(隼人)

問 医療救護所はどこに
被災ペットはどこへ

災害は、365日昼夜を問わず発生する。傷病人、妊産婦もいる。救護所は万全か。ペットとどこへ避難すればいいのか。避難所の運営をその場任せでいいのか。日頃から市内の医師会、獣医師会や事業所などとの協力は、順調なのか。公は、地元を支える姿勢を。

答 地域や関係機関との
連携強化に努める

救護所や避難所の運営、ペット同行避難への対応など、市単独の災害対応には限界がある。平時からの備えとして、自主防災組織などの地域住民や、医療機関などの関係機関との連携強化に努めるとともに、そのための情報交換や訓練の実施などの取組を継続する。



問 犬、猫殺処分ゼロ対策を

殺処分を減らす対策は、引き取り先を確保することである。保護する避難所の整備を進め、保護団体と連携して、譲渡会を開催する考えはないか。また、高齢化などで飼育が不可能となる場合がある。担当課に相談窓口を設置する考えはないか。

答 ボランティア団体などの
支援をしていく

市では、保護シェルター（避難所）の整備がおずかしいため、ボランティア団体などの民間団体から避難所の設置や譲渡会の開催について相談があった際には、積極的に支援していく。動物の適正飼養および終生飼養などの相談については、環境課で対応していく。



高木隆三 議員
(公明党)

問 乳幼児の家庭内事故
防止対策を

平成18年9月議会の一般質問で取り上げた。生活環境も変わり乳幼児の事故も多様化している。その後の対応は。また、葛飾区では、乳幼児健診が行われる健康プラザに「ヒヤリハットジオラマ」を設置して、注目されている。当市において設置する考えはないか。

答 発達に応じた啓発と
注意喚起を行う

各健診時などには発達に応じた啓発をしている。また、0歳児の事故発生が多いことから、赤ちゃん訪問において具体的な事故の発生状況や対応策のパンフレットを配布し啓発している。今後は、掲示物の見直しを行い、よりわかりやすい注意喚起に努めていく。

